

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」

平成28年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成28年7月 8日(金)発行 第 15 号 発行責任者:高橋 弘悦

有志会社始動！ 名前は「西中ほのぼの工房」

4日、西山中学校の活動を組織化するための説明会を開催し、生徒の会社が動き出しました。

西山中学校では、3年前からアントレプレナーシップ育成教育（起業家教育）に取り組んでおり、生徒が開発した「ひストラップ」が好評です。昨年度末には生徒一人ひとりに配当が出せるほど順調に成長していますが、「起業家スピリット」確立のために、最後に残された課題が、生徒自身による自主運営、会社組織化でした。

6月には、東邦銀行の方から会社組織について学び、29日には木工クラフトを体験して新しい企画品について構想を練りました。これらを踏まえての会社設立となります。

社長には、2年生の金子天斗くん、また会社は生産部、企画部、宣伝部、経理部に分かれ、それぞれ部長を中心に活動を開始します。

「ひストラップ」がそうであったように、まずは文化祭バザーで販売、それを受けてやないづ冬まつり、町内各使節への売り込み…と展開していきます。応援よろしく願います。



尾瀬で自然環境学習をしてきます！

7月12、13日の両日、1泊2日の日程で「尾瀬」自然環境学習に出かけます。

「自然環境に対する理解を深める」を主な目的としていますが、檜枝岐村の地域活性化の取り組みも学ばせていただくことになっています。

この行事は、柳津中学校の第2学年との合同行事で、交流も深められるものと思います。尾瀬は、国内はもとより、世界にも誇れる自然環境の宝庫です。西山とはどのように違うのか、身体全体で感じてきて欲しいと思います。



これからの会津を支える人々のお話し

ここ数日の間に、「すごいな、がんばってるな」と思わせるすてきな出会いがありました。この会津を舞台に世界展開をしようとがんばっているグループです。異業種の3人の方々ですが、それぞれのよさを融合して新たなビジネスを企画されています。

こだわりは会津の再生。交通事情が悪かった時代には、会津は自給自足をせざるを得なかった。そのために、会津独自の文化や食が発達し、完成度の高い世界があった。

今は、交通の発達により日本全国が標準化され、中央を向いた産業が中心。そのため、「会津のもの」と銘打っていても、使われているもものが中国産であったり、中央の嗜好に合わせたものであったりする。そのため、会津のよさが失われつつあり、会津産のものは中央の下請けになりつつある。したがって、例えば農産品であれば品質はともかく、とりあえず作ればよい、量がそろえばよい…、と考えるようになり、会津独自の味がなくなってしまっている。

過去にあった会津のよさを再生し、会津産のクオリティを高めることによって、価値の高いものを生み出していこう。そのためには、各業種が独自にとり組むのではなく、さまざまな業種がそれぞれのよさを融合しあって世界展開していこう。

いずれの方々も、一度は生まれ故郷の会津を離れ、都会で活躍していた方ばかり…。それをなげうって故郷に戻り、家業を受け継いで活躍されています。「モデルが現実にいた！」と、この偶然の出会いに本当に感謝しました。

今後アジアを中心にリサーチを行い、積極的に世界に売り込んでいく予定だとのこと。このことがとりもなおさず、これまで「売るだけ」だった農産物などの会津産の質を高めることにつながり、会津の再生につながる、と力強く語ってくれました。

今、西山中学校では、アントレプレナーシップ育成教育を展開しており、地元のよさを見直し、あわせて世界への目も開いていこうとしています。まさに、前述の方々の姿を目指すものとなっています。この活動が将来、地元の活性化につながっていくといいな、と夢見ています。



漢字コンテストです

期末テストが終わり、生徒は少し気が抜けたようになっています。でも、意外に夏休みを迎えるまでのこの期間は、学習習慣を身に付ける意味で重要な時期でもあります。

漢字コンテストを実施しますので、ご家庭でも応援お願いします。練習すればするほど得点が伸びるテストです。夏休みの学習習慣形成にもつながるものとなりますので、よろしくお願いします。